

由利本荘市立東由利中学校



だいやま

ふふんふけい ふひふはつ
不憤不啓 不悻不発

【学校教育目標】
清らかに たくましく

学校だより No. 35

R 6. 3. 1 2 (火) 発行

第55期生 晴れやかな旅立ち

3月9日(土) 来賓に東由利教育学習課長 齋藤泰幸様、市議会議員 長沼久利様をはじめ多数のご来賓の皆様にご臨席いただき、第55回目となる東由利中学校の卒業式が無事挙行されました。

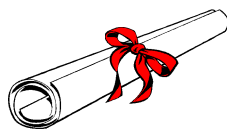
第55期生21名は、それぞれの思い出を胸に、最後は「旅立ちの日に」の歌に自分たちの思いを重ねて、晴れやかに東由利中学校を旅立っていきました。

これまで保護者の皆様や地域の方々にたくさんお世話になったことと思います。卒業生に代わり、これまでのご厚情に感謝いたします。

今後も、第55期生を地域の仲間として温かくお見守りください。



答 辞



卒業式の様子を
学校HPでご覧
いただけます。



春雪舞う今日、私たちのためにこのように厳かで、晴れやかな卒業式を挙行していただき、心より感謝致します。

私たちがこの東由利中学校に入学してから、3年が経ちました。

この3年間のうち、2年は、コロナウィルスによる感染症対策のため、さまざまな行動制限が求められました。しかし、昨年5月から緩和され、東京へ修学旅行に行くことができたり、向き合っ給食を食べたりと、以前のような「普通」の学校生活を送ることができるようになりました。以前は「普通」であることを「あたりまえ」と感じていましたが、今では「普通」であることが、とても「ありがたい」ことだと、強く思えるようになりました。私たちは、「あたりまえの」中学校生活を送ることができなかった、ここ数年の先輩たちよりも、はるかに恵まれた学校生活を送ることができたことを深く感謝しています。

さて、私たちは、とても元気で、活発で、伸び伸びしており、黙っていることが苦手で、先生方から注意を受けることがたくさんありました。このような私たちでしたが、この3年間、多くの方々からのご指導や、さまざまな体験を通して、自分たちでも驚くほど成長できたと思います。

3年前、私たちは、大きな期待と楽しみに心躍らせ東由利中学校に入学しました。小学校の頃には感じられなかった先輩との微妙な距離、中学校の先生方の醸し出す雰囲気は、言動の幼い私たちに対して「中学校は小学校とはちがうところだ」と、忠告してくれているように感じました。

1年生の頃には、学校生活の多くを、特に「希望坂での会釈」をはじめとするあいさつの大切さを、先輩方の姿を通して学びました。そして、私たちが中心となった2年生後期からの生徒会活動の重点の一つに「あいさつ」を掲げ、校門前や玄関での「あいさつ運動」を取り入れ、東由利中の伝統や先輩方の思いを引き継ぐよう努めました。

中堅学年としての2年生。部活動では後輩ができ、また生徒会活動や学校行事などでは、重要な役割を任せてもらえるようになり、頼られていることへの心地よさを感じる一方、責任を果たすことの大変さも感じました。また、学級目標「One for all」のもと、「一期一会」の意味、今この瞬間瞬間を大切に生きていこうという思いを強くした1年でもありました。

最高学年である3年生での1年間。とても楽しみにしていた修学旅行。3日間、仲間と行動を共にすることで、これまで以上にお互いを知り合うことができました。自分たちの力で電車を乗り継ぎ、ようやく訪問先にたどり着いた、あの時のうれしさ、楽しさは、忘れられません。

修学旅行から帰って来ると、すぐに「体育祭」。4年ぶりの外での開催は、戸惑うことがたくさんありましたが、各チームともに、団長・副団長を中心にまとまり、成功で終わることができました。

10月には、私たちが先頭に立って活動する最後の行事である東中祭が行われました。それぞれの部門ごとに工夫を凝らしたり、一人一人が個性を発揮したりしながら、全校一丸となって取り組んだ東中祭は、訪れた人たちに東中生の頑張りや、東中生のよさを、伝えられたことと思います。

また、東中祭で、3年生は、「乳房の銀杏」という岩館の銀杏をモチーフにした劇を行いました。本番で成功できるか、とても不安でした。しかし、キャスト・スタッフ総勢21名、一致団結して大成功といえるほどの演劇を作り上げ、満足感・達成感をもって、最後の大きな行事を締めくくることができました。

私たちが小1の時に始まった小中合同駅伝大会。毎年、たくさんの地域の方々の協力によって、私たちは安心・安全に走ることができていました。この駅伝大会は、コロナ禍により減ってしまった地域の人と関わる大切な時間でした。地域の方から送られる声援や温かい言葉の数々は、気恥ずかしさを感じることもありましたが、地域の方の温かい気持ちが伝わってきました。

私たち21名は、このような、煌めく、たくさんの思い出を胸に、卒業の日を迎えることができました。

在校生の皆さん、私たち3年生をしっかりと支えてくれてありがとうございました。私たちが卒業した後、東由利中学校を支えていくのは皆さんです。皆さんには、東由利中学校の伝統を継承しつつ、新たなことにも挑戦し、東由利中学校をさらに発展させてくれることを期待しています。新しいことを行うことは難しいと思いますが、「水したたりて、石をうがつ」という言葉のようにどんな小さなことも続け、私たちにできなかった大きな事を成し遂げてください。

いつも一緒にいることが当たり前だった3年生のみなさん。小学校から、もっと早い人は保育園の時から、長い時間を過ごしてきて、家族のように感じていました。テストの度に競い合っただけで一喜一憂した時間や、ふざけ合っただけで大笑をした時間、何気ない日常もかけがえのない大切な思い出です。ほんとうにありがとうございます。この学校で一緒に泣いたり、笑ったりするのが、今日で最後だと思うと寂しさがこみ上げてきます。でもみなさんとの思い出を糧にして、この先も力強く歩んでいきたいと思っています。

勉強だけでなく、社会の一員として大切なことを教えてくださった先生方。いつも私たちの話や悩みに耳を傾け、共に考えてくださりありがとうございました。先生方から学んだことを生かして、立派な大人になって、また会いに来ます。それまでお体に気を付けて待っていてください。

いつもそばで見守り、育ててくれた家族の皆さん。私たちは決して素直でよい子ではなかったはずですが、時には思ってもいない言葉で傷つけてしまうこともあったかもしれません。それでもこうして、学校に通い、友だちを作り、卒業をすることができた。この過程を支えてくれたのは他でもない家族の存在です。本当に感謝しています。今までありがとうございました。

素晴らしい先輩や後輩、先生方、家族の皆さん、そして地域の皆様に恵まれて中学校生活を送ることができたことは、私たち3年生 21名の誇りです。たくさんの思い出とかけがえのない中学校生活を支えてくれたすべての方々と東由利中学校に心から感謝します

変わることもない友情、皆様への感謝の気持ちを胸に、今、私たちは、新しい世界への一步を踏み出します。どんな困難が立ちかはだかろうとも自分たちの力を信じ、決して折れず、それぞれの夢に向かって、清らかに たくましく 前進することを誓い、答辞と致します。

令和6年3月9日

第55期卒業生代表 小松 聖永

ありがとうございます
ございます

株式会社 協和 代表取締役会長の畑山敏也様より
ご著書 『考え方ひとつで人生が変わる』を
全校生徒分52冊と学校分2冊 いただきました。
どうもありがとうございました。素敵な本です。
お家の方々も、是非読んでみてください。

